

衣のNGO

ふるぎふゆとををいかけ?

JFSA

わたかたなくらしをささえる

せかいのまおとさをかんたえる

NPO 法人日本ファイバーリサイクル連帯協議会
〒260-0001 千葉市中央区都町 3-14-10
Tel・Fax : 043-234-1206
E-mail : jfsa@f3.dion.ne.jp
ホームページ : <http://www.jfsa.jpn.org/>

会報 43号 2017年4月

特集 ムザヒル校長へのインタビュー

キャンパスⅡは、キャンパスⅠのあるスラムエリアよりも閉鎖的です。それは場所だけではなく、暮らしている人の心も完全に閉じています。彼らの多くは、ゴミ捨て場の外がどんなものか知りません。学校に行けば、叩かれるんじゃないか?と思っている親が今もいます。……ムザヒル校長へのインタビュー(2p)より



カラチ市のゴミ捨て場“カチラクンディ”で暮らす子どもたち。このゴミ捨て場には約6000人が暮らしている。集まったゴミを燃やし、銅や鉄、ガラスなどを売って暮らしている。

目次

- 特集● ムザヒル校長へのインタビュー
- 「学びあうこと」・・・・・・・・・・・・・2～3p
- 派遣報告
- 「アル・カイールアカデミーという灯台」・・・4～5p
- 第55回&第56回送り出し報告・・・・・・・・5p
- 派遣報告「子どもたちから教わること」・・・6～7p

- チャエ ケ サート・・・・・・・・・・・・・7p
- JFSAのお金の流れ・・・・・・・・・・・・・8p
- 千葉センター便り・・・・・・・・・・・・・9p
- 東葛センター便り・・・・・・・・・・・・・10p
- 心根(こころね)フリマ通信・・・・・・・・11p
- JFSAからのお知らせ・・・・・・・・・・・・・12p

インタビュー

J F S A事務局・桑山（以下、J）…古着を出した方から、「古着を出しています。現地（カラチ）の様子は改善しましたか？」という質問がありました。私がパキスタンに初めて来たのは6年前です。その頃から、学校の様子はすごく変わったと思います。本校は4階建てになり、当時キャンパスⅡまでしかなかった分校はキャンパスⅦまで増えました。生徒も増えました。縫製工房もできました。発電機も導入されました。でも、ムザヒルさんは学校を始めて30年です。大きな変化はありませんか？

J…暮らしの在りようが変わったとはどういうことですか？
 M…暴力や夫婦喧嘩、近所同士の言い争いが減りました。そしてスラムエリア全体で、ドラッグや犯罪が減りました。
 J…どうして変化が起こったのでしょうか？
 M…子どもたちが学校に行き授業や友達と過ごすことで、良いことと悪いことが分かるようになりましす。その事が家庭でも反映され、その子の行動が変わります。そして弟や妹も影響を受けて、行動が変わっていきます。親が悪いことをしている、そのことを親に伝えます。子どもたちから言われると、親も直さざるをえません。そういう事の積み重ねが家庭そのものの暮らしの在りようを変えていきます。良い方向に変わったということが、その家族そのものの誇りになります。そして、その変化は近所に伝わります。そして、その家庭の近所も変わっていきます。そうすると、今度は近所同士の言い争いがなくなります。それ

が地域全体に広がっていき、アル・カイルアカデミーを始めて10年後（今から約20年前）には犯罪がほとんど無くなりました。昔はドラッグを売る人も買う人も大勢いましたが、今はほとんどいなくなりました。
 J…キャンパスⅡ（カラチ市内のゴミ捨て場“カチラクンディ”にある学校）は開校して10年以上経ちましたが、同じような変化は起きていますか？
 M…キャンパスⅡは、キャンパスⅠのあるスラムエリアよりも閉鎖的です。それは場所だけではなく、暮らしている人の心も完全に閉じています。彼らの多くは、ゴミ捨て場の外がどんなものか知りません。学校に行けば、何をされるか分からない。叩かれるんじゃないか？と思っている親が今もいます。ですが、本校と同じように学校に通っている子どもたちの変化に兄弟が影響され、カチラクンディも少しずつですが、変化しています。

J…逆に残念なことはありませんでしたか？
 M…7・8年程前から、銀行や大きな工場で働く卒業生がキャンパスⅠからでてきました。その事は嬉しいのですが、彼らは良い給与を得ると、家族と一緒にこのスラムエリアを出て行ってしまいません。彼らはスラムエリアで生まれ育ちました。彼らの原点はここです。彼らと一緒にスラムを変えていく人物になると良いと思っています。貧しい人も豊かな人も切り離されなくて一緒にいられる状態を作っていきたいです。
 J…一緒にいられる状態とはどのような事ですか？
 M…例えば「彼らと同じチャイを飲む」。チャイを飲みながらお互いのことを話し、お互いの内面を見つめあうことが大切です。パキスタンの社会は「貧しい人たちは尊重されない」社会です。そのことがとても嫌でした。私の両親でさえ、お手伝いさんに差別をしていました。

ムザヒル校長への

J… 具体的にどんな差別でしたか？

M… 例えば、飲み物を別にしていました。嫌でたまりませんでした。そして、11歳の時お金を集めて、貧しい人たちに配ってみました。でも、与えるだけでは駄目でした。彼らは教育を受けていない（読み書きができない）ことにコンプレックスを持っていました。なので、学校を始めることにしました。それでも、最初から勉強を教えていたわけではありません。まずやったことは、一緒に食事をする事です。友人と一緒にカレーを作って、スラムの子どもたちと一緒に食べました。学校を始めるには、子どもたちとの間に信頼関係がなければいけないと思います。まず一緒に食事をする事で、彼らと良い関係を築くようにしました。何より子どもたちと一緒にご飯を食べている時間が楽しかったです。

J… 教育の成果とは何でしょうか？

M… 良い大学に行つて、例えば医者になつて、良い給料を得る事も成果でしょうが、それよりも自分

に自信と誇りを持つことが成果だと思ひます。そして、社会全体が貧しい人の存在を認めて差別しないということをして社会の中に作ることにだと思ひます。そのためには、お互いに学びあうことが大切です。先生と本だけでは学校はできません。本からは情報が、先生からは知識が得られます。そのことを知恵に変えていくことが教育の成果でしょう。知恵が子どもたちの中で作られていくと、様々な事に興味を持ち始めます。そして、自分から学ぶようになるのです。



アル・カイルアカデミー本校の実験室
実験の準備をする生徒



アル・カイルアカデミー本校のあるスラムエリア
机を修理している男性
この机はアル・カイルアカデミーでも使われるのだろうか



ムザヒル校長（左）とママダリさん（右）
ママダリさんはアル・カイルアカデミー最初の生徒で、
ムザヒル校長とは30年来の付き合いになる。
「ママダリからも教わることもある」とムザヒル校長

I. 第55回コンテナの卸売価格交渉と荷下ろしの立ち会い

これまでAKBGによる卸売業者ワリー氏とのコンテナの価格交渉は、荷下ろしの間際まで数回に渡り行なうことが多く、その最後の何回かにJFSAも立ち会う形が続いていました。しかし今回AKBGは「交渉が長引くほどコンテナ到着までの残り時間が減り、同時に自分たちの選択肢が限られてしまう。」と考へ、1月18日にJFSAが詰め込みを行なうてから間もなく現地での価格交渉を始めました。詰め込んだ品物の一覧表を元にAKBGは1KGあたり116ルピーを妥結目標と設定しましたが、今回もアフガニスタンでの古着マーケットが厳しいことを理由に価格交渉が難航しました。AKBGの粘り強い交渉により結果的に115ルピーで妥結しました。AKBG事務局のカユームさんは「今

回の交渉はほぼ成功したと考えています」と言いました。

一方、ワリー氏によると「パキスタンとアフガニスタンの関係悪化により、数週間両国の国境が封鎖され、古着業者も含め、アフガニスタンへ輸出するはずのコンテナが国境手前で足止めされている。」と話していました。この件は帰国後にカユームさんに再び確認したところ、両政府間で国境を再び開くことで合意されたそうです。

今回のパキスタン派遣も、コンテナの現地到着を見越して計画したのですが、通関手続きに予想以上の時間を要し、荷下ろし作業を行なえたのは帰国間際でした。通関手続きに時間を要したのは、最近輸入書類のパソコンリストに記載されている物以外の物を混載する業者が多いため、検査がとて厳しくなっていることが一因でした。JFSAのコンテナは3月15日

に卸売業者の倉庫に到着し、8名の荷役労働者とカユームさん、アル・カイルル第1期生のムハマッド・アリ(通称・ママダリさん 写真:3ページ)さんも参加して約2時間で荷下ろし作業を終えました。

II. アル・カイルルアカデミーの教育事業の確認

・生徒へのインタビュー

今回の派遣中に女子生徒3名、ラフマさん(本校9年生)、ガズナさん(本校10年生)、そして卒業生で今は大学薬学部2年生のハリーマさんにインタビューをしました。ラフマさんとガズナさんは、お母さんやお姉さんと協力して、自宅で「ホーム・テューション(家庭での小さな塾)」を行なっており、夕方になると5〜6名の子どもに勉強を教えているそうです。月謝は低学年で一人2〜300ルピー(約2〜300円

海外事業担当 依知川 守
3月6日(月)〜3月19日(日)
同行者 グリーンコープ共同体5名
3月6日(月)〜3月11日(土)

パキスタンの物価は日本の7分の1)、高学年で4〜500ルピー(約4〜500円)。家族にとつては副収入になり、子ども達にとつては学校と自宅以外で勉強する場になっていきます。アル・カイルルアカデミーで学んだ経験がホーム・テューションとして地域に教育の機会を網の目のように繋いでいるように感じました。



学校が校内で運営しているリサイクルショップ。奥の女性がショップを担当している。

後日、ラフマさんのお母さんに学校で会えたので「子どもに対しての願望は何ですか？」と質問しました。

「将来のことは神様に委ねています。教育を受けることは、社会に出て良い人生を送るために大切なこと。私にできることは子ども達にしっかり教育を受けさせることです。」と答えがありました。

・3人の将来の夢は？

ラフマさんとガズナさんは「医師」、ハリーマさんは「薬剤師」との答えでした。この答えについてムザヒル校長は「パキスタンでは、若い生徒に将来について問いかけると、決まって医師かエンジニアという答えが返ってくるでしょう。早期の段階では、彼らは高度な職業としてこの2つのみを思い浮かべているのです。しかし時間が経つて彼らが成熟し、広い世界を見ると、多くの学生が行き詰まってしまう、当初の目的を達成する人はほんのわずかです。一方、お金を稼ぐだけでなく、この社会に人間を愛する医者が必要だからこそ医者になりたいという学生もいます。彼らは患者の痛みをととても近いところから

感じ、貧しい患者に奉仕するという情熱を持っています。」

以前ムザヒル校長が「この社会が様々な人、職業によって成り立っているのだということを生徒達に伝えたい」と話していたのを思い出しました。

ハリーマさんは大学の薬学部まで進み、いよいよ目標が目の前に見えてきていることでしょう。彼女に大学を卒業した後のアル・カイルアカデミーとの関わりを尋ねると4つ答えが返ってきました。①学校で得た知識を先輩達に伝える。②仕事で得たお金を学校に寄付する。③学校のクリニックを手伝う。④時間を学校のために使う。

これから本人の暮らしが様々に変わる中では難しいこともあるかもしれませんが、アル・カイルアカデミーで学んできたからこそ、生徒の気持ちを身近に感じる存在として学校に関わり続けてほしいと感じます。

最後にハリーマさんに「あなたにとってアル・カイルカデミーはどんな存在ですか？」と質問しました。

彼女は一言「光（ローシユニー）です。」と答えました。

コンテナ積みこみ送り出し報告

第55回 1月18日(水) ボランティア38名 送り出し量24トン9kg



1月の寒空の下、38名のボランティアの皆さんと一緒に送り出し作業を行いました。2升のお米を炊いて作った朝ごはん用のオニギリも、おかわり分も含め55名分用意したカレー（お米は4升半）、は全て無くなりました。コンテナの中にはパキスタンでの卸価格が高い毛布や女性下着などを多く入れることができました。

第56回 4月5日(水) ボランティア48名 送り出し量24トン118kg

最近、送り出し量が1トン以上増え、作業時間が延びていました（15時終了予定が16時半を過ぎてしまうことも）。ボランティアの方から、早く終えよう！という声があり、開始時間を早め、休憩時間も時間を決めて作業を行いました。ボランティアの皆さんの協力のおかげで、今回は15時10分に終了。全員で集合写真を撮ることができました。



「3月22日に本校とキャンパスⅢの9年生と10年生と先生たちでピクニックに行くんですよ。」とタスニム副校長から聞き、後日このピクニックについてムザヒル校長に尋ねてみました。

・アル・カイルアカデミーの卒業パーティー

「これは、卒業パーティーのようなものです。3月にマトリックテストを受け、結果が出るとアル・カイルアカデミーは修了です。10年生はこのピクニックを最後に卒業です。ピクニックでは、海辺に行って遊んだり、一緒にお昼ごはんも食べます。また9年生と10年生で学校での思い出を語り合います。そして、10年生の中には泣いてしまう子もいます。このイベントは9年生の代表がチームを作り、企画と準備を進めていきます。お金も子どもたちが出し合います。不足分は学校が補助しますが、生徒たちでこのイベントを作っていくことを大切にしています。」と教えてくれました。

卒業後の進路についても尋ねてみました。「マトリックテストをパスした生徒の80%はアル・カイルアカデミーのカレッジ（2年間の予科学校）に通っています。残りの20%は、他のカレッジに行く生徒もいれば、働く生徒もいます。アル・カイルアカデミーのカレッジの課題は先生を見つけることです。カレッジの先生になるには、4年制の大学卒業の資格が必要です。給与も高くなります。良い先生を見つけるのはとにかく難しいです。」

・10年学び続けるということ

子どもたちにインタビュをするると、10年間（カレッジに通うと更に2年）学び続けることの大変さが分かります。私がパキスタンに初めて訪れたのは6年前でした。その時、12才（5年生）の女の子にインタビュをしました。彼は、親や兄弟の仕事とその内容と給料、家計がどの位厳しいかを知っていました。そのことに驚いたと同時に「厳しい暮らし」の一

端を彼から教わりました。家族に病気の人がいたり、兄弟が多かったりすると、なかなか10年間学校に通い続けることができません。その子が長男なのか末っ子なのかで学び続けられるかどうかも変わってきます。長男の場合は、家族が皆厳しい暮らしをしているので、親もその子自身も家族のために働くことを選ぶため、高学年になると退学してしまうそうです。一人でも多くの子どもたちが学び

続けられるために、アル・カイルアカデミーでは色々な「支え」を行なっています。下の子の守りをするために学校に通えなくなると分かった時からナーサリークラス（保育園）を始めました。希望する子には、無料の給食もあります。また遠くから来ている子には、交通費を支給することがあるそうです。大学に進学する学生には、奨学金制度を設けています。



ナーサリークラスの様子
最年少は2歳半だと教務主任のヤスミンさんが教えてくれた。

広報担当 桑山 奈々

3月6日(月)～3月17日(金)

・学校は家だ

その奨学金を受けている生徒の一人にシャヒッドさんという男性がいます。彼は4年前にインタビューをした学生で、当時33歳でした。家計のために一旦退学したのですが、もう一度学びたいと30歳の時5年生から再度入学しました。彼は「学校は自分にとつて家」だと言い、もし学校で何か困ったことがあったら助けてくれるか？と質問すると「もちろん。だって、自分の家に何か困ったことがあったら助けるのは当然でしょ？」と答えてくれました。このやりとりは、4年経った今でも鮮明に覚えています。

彼は今、4年制の大学で数学物理を専攻しています。彼の様子をムザヒル校長から聞きました。「彼は大学に行つて、人生が変わつたと言っています。卒業後は、アル・カイルアカデミーのカレッジの先生になって学校のために働き、後輩を応援したいと言っています。」以前インタビューをした時は、「命令していれば良いからエンジニアになりたい」と言っていた彼の変化を聞いて、胸がまた熱くなりました。卒業生が大学に行つて変わつて

いくのを目の当たりにし、彼らの話を聞いて自分も教わる部分があるとムザヒル校長は言っています。私もインタビュアーやムザヒル校長の話を通して、様々なことに気づき、教わっています。



アル・カイルアカデミーのカレッジで学ぶ女子学生

チャエケ
サート

痛い痛いのとんでけ!

ティーク・ホーナ・ティーク・ホーナ、アージャオ



パキスタンの公用語はウルドゥ語です。チャエケ サート もウルドゥ語で「チャエ」は「甘いミルクティー(チャイ)」、「ケ サート」は「一緒に」です。なので「チャイと一緒に」という意味になります。パキスタンでは1日に何杯もチャイを飲みます。そして、賑やかにおしゃべりを楽しみます。

副校長のタスニムさんとチャイを飲みながらお話をしていた時です。目の前で子どもが転んでしまいました。泣き出してしまった子に、側にいた母親が駆け寄って、抱き上げました。その子はすぐに泣き止み、私もタスニムさんもお互いの顔を見て、笑顔を交わしました。タスニムさんに尋ねました。「日本では、子どもが転んだりした時に、親やそばにいる大人が子どもに『痛い痛いの飛んでけ!』と言います。パキスタンではありますか?」

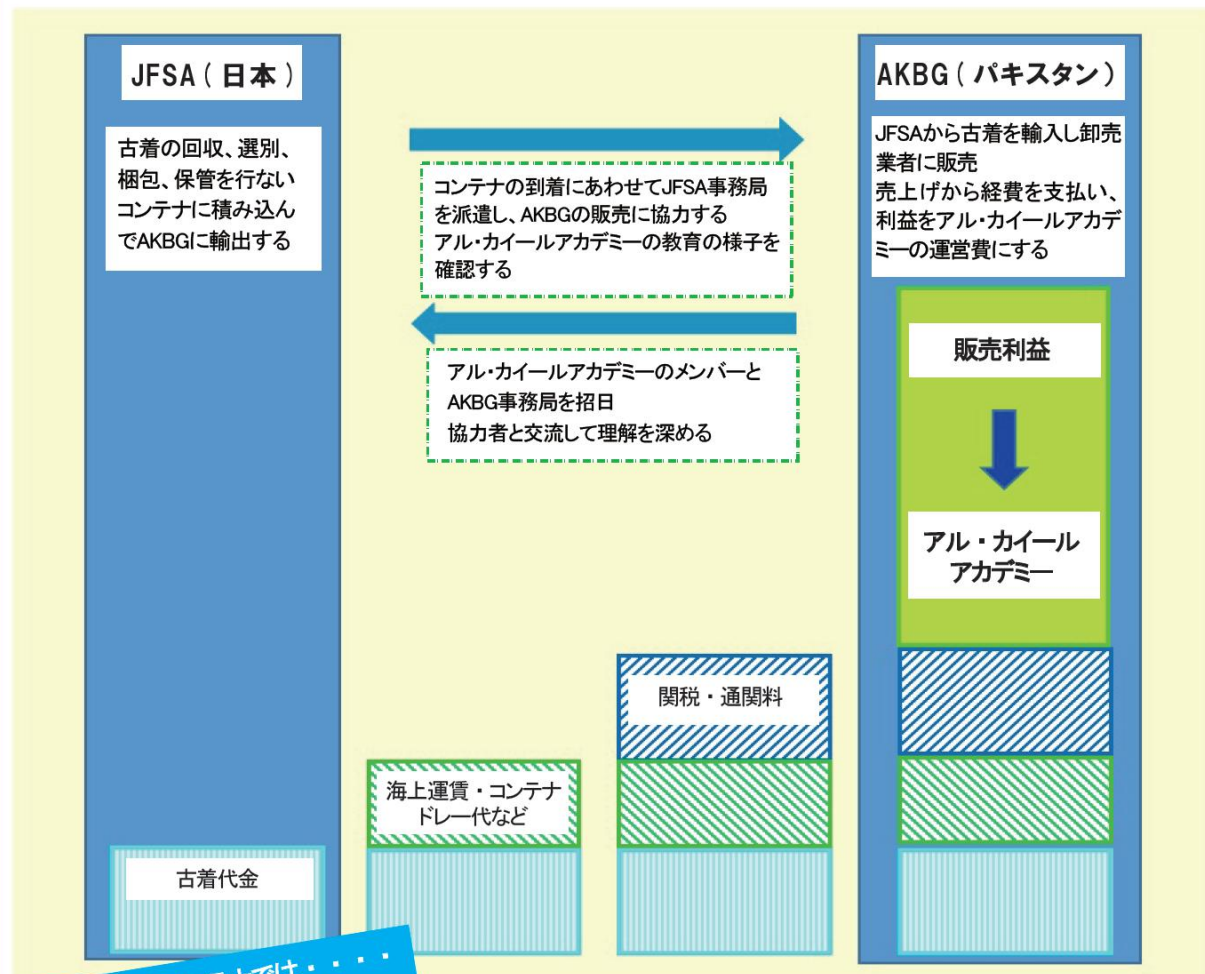
「パキスタンにもありますよ。『ティーク・ホーナ・ティーク・ホーナ・アージャオ』です(直訳:良くなる・良くなる・おいで)。」

「日本は悪いものを追い出す、パキスタンでは良くなるもの呼び込む。言っていることは逆ですけど、同じおまじないですね。面白いですね。」更に私は尋ねました。「それは、お父さんやお母さんが言つのですか?」

「パキスタンではほとんどがお母さんです。私も子どもたちが小さい時はよく言っていました。」

忘れないようにカバンからメモを取り出した時、タスニムさんが優しく微笑みながら私に言いました。「メモは後でいいから。今はチャイを飲みなさい。冷めちゃうでしょ(笑)。」

古着・毛布・バッグ・靴などが子どもたちの学びの機会を作る仕組み JFSA と AKBG の連帯事業



第55回送り出しコンテナでは・・・
送り出し総量：24トン9キロ

古着代金 480,180 円	海上運賃・コンテナドレー代など 401,760 円	関税・通関料など 485,800 円	販売利益 1,652,420 円 アル・カイルアカデミーへ
-------------------	------------------------------	-----------------------	-------------------------------------

JFSAは、1年に4回AKBG（アル・カイル事業グループ）にコンテナを輸出しています（合計約100トン）。AKBGはそれを卸業者に販売して、輸入経費を引いた利益を学校の運営費にしています。選別した古着のうち約2割はJFSAが国内販売して、全体の事業経費をまかなっています。

1回25トン分のコンテナを送るための準備に必要な期間は約3ヶ月です。届いた荷物を開けて1点ずつ種類別に分け（一時選別）、さらにAKBGへの輸出用と国内リユース販売用に分けます（二次選別）。輸出用は種類別に50キロ単位で梱包します。国内販売用は季節ごとに分けて保管し、ハンガーにかけたり値札をつけたりして販売します。古着の選別や販売には、地域で自立を目指して活動をする人たちも参加しています。いろいろな交流が生まれています。

古着を出す人たちの「もったいない、役に立ってほしい」という気持ちと、「子どもたちが教育の機会を手にする事で、貧困の連鎖を断ち切るチャンスを作りたい」というアル・カイルアカデミーの気持ちがつながった古着リサイクルで、JFSAとAKBGは、関わる人たちがお互いの思いをたいせつにする事業をめざしています。

千葉センターだより

新しい販売の場

JFSAでは、国内販売する品物を預けて販売してもらい、委託販売も行なっています。現在は、常設販売をする所が3箇所（お店2店舗、地域交流スペース1箇所）、フリーマーケットやイベントで販売をする団体が2つあります。

委託販売の目的は、販売を通して地域の人々つながり、活動への共感や参加を広げること、そして、委託者・受託者・利用者が利益を得られる形を協力して作ることです。

始めようと考えたきっかけは、6年半前の選別協力団体の取り組みを始める時でした。選別協力団体には、選別した量に対して協力金を支払い、協力金は団体の活動資金になります。この団体が販売にも協力できたら、お互いに利益を得られる取り組みになると考えた所からでした。しかし、販売は難しいという団体が多く、なかなか進められずにいました。

その後、お付き合いのある団体や個人から、自分のお店の一角でJFSAの古着を販売したい、という提案をいただきました。そして約2年前から、新たに販売協力団体として委託販売を始めました。とはいっても、始めた当初はきちんと担当者も置けず、商品の入替も定期的には行けないという状況で、お互いに利益になる売上にはなりませんでした。

今年になってからアルバイトスタッフが2名増えました。委託販売の体制も整い始め、品物の流れ、人の流れ、それに伴う収入、そしてそれを支

千葉ショップ担当事務局 大橋 紀子

えるお互いの「やろう」という気持ちの歯車が噛み合ってきたかなという、手応えを感じています。

常設の3箇所は、現在2週間に1回入れ替えを行なっています。商品の準備は結構大変ですが、入れ替えに行く中で、お店のことやお客さんの様子などを聞き、どんなものが売れそうか、どんなものを売りたいのかなど、委託先の方（店主）と一緒に考えることは、とても楽しいです。

今年から週1回、朝のミーティングも始めています。古着の選別、販売する商品準備（店、フリマ、イベント、委託販売）、そして販売の結果も皆で一緒に考え、作っていきける場にしたいと思ったからです。予想して準備したものが当たる時もあれば外れる時もありますが、そのことを皆で喜んだり、どうして売れないんだろうと考えたりして、次の2週間にに向けて試していけることがとても楽しいと感じるところです。

常設の委託販売の場

- アースマーケット（自然食品店）
千葉市美浜区高浜 1-10-1（高浜ショッピングセンター内）
月・火・木 10:00～18:00
金・土・日 10:00～19:00 水曜定休
- おおなみこなみ（多世代交流拠点）
千葉市花見川区検見川町 3-159-2
火・金 10:30～17:00
水・木 13:00～17:00
- 中川クロス（洋服のお直しの店）
市川市市川 3-1-1 13:00～17:00（火曜定休）

JFSA 千葉ショップ OPEN★10:30～19:00（木曜定休）

- ☆住所 千葉市中央区都町 3-14-10
- ☆電話・ファックス 043-234-1206
- ☆アクセス
- ★JR千葉駅東口より1番乗り場のバスに乗り『都町球場入口』下車。徒歩1分。100円ショップダイソー裏。
- ★駐車場もあります。お車でどうぞ。



東葛センターだより

10年

古着ショップ kapre (カプレ) 担当事務局 田辺 航太郎

2017年の3月で、『kapre』(カプレ：パキスタンの言葉、ウルドゥー語で「服」という名前)という名前で店舗を構えて10年になりました。

最初はJR柏駅から徒歩5分ほどのテナントに古着屋として出店しました。開店当時、「千葉の原宿」と言われた柏駅周辺には、若者向けのお店がたくさんありました。デパートやファッションビルにはブランドやセレクトショップが多数あり、古着屋は「ウラカシ」と言われる表通りから一本入った路地にたくさんありました。一番多い時期で古着屋は30件以上あったそうです。

そこで3年半ほど営業し、2010年11月、東葛地域に店舗としてだけでなく古着の回収、仕分けの拠点も作ろうということで、現在の柏市大室に倉庫兼店舗を構えました。その場所の総称としては「JFSA東葛センター」ですが、店舗は『kapre』として引き続き営業しています。

10年たてばいろいろ状況が変わります。現在「ウラカシ」に古着屋は10件ほどです。今も付き合いのある柏駅周辺の古着屋さんに話を聞いてみると、状況は決して良く無いようです。ただ、古着屋すべての状況が悪いわけではなく、東京や大阪などの都市部ではむしろ良いそうです。

JFSAは事業を行なって活動を進めて行くので、そうした状況にも左右されます。『kapre』では、パキスタンに集まる世界中の古着の中から選

んで買い付けて日本で販売する事業も行なっています。そうしたものには特に「匂」があります。たとえば、5年前は大きいサイズの服は売れませんでした。今は売れます。柄も今は派手なものが好まれます。そうした変化への対応が求められます。振り返ってみるとこの10年間は、いつでも今何が必要なのか考えて、それに向けて動いてきました。それはこれからも変わらないと思います。

そして今やりたいことは、この先の10年間を考えて新しく取り組むことです。大きな課題として、回収量を増やすことやパキスタンでのアル・カイル事業部との新たな事業展開が課題として考えられており、それを達成するための環境づくりが必要です。今まで通り、多くの人の協力が欠かせません。そうしたことを、「楽しくて10年間続けたいくなるような仕事づくり」としてやっていきたいと思っています。



10年前、オープンした当時の kapre 店内

JFSA 古着ショップ kapre (カプレ) OPEN★10:30～19:00 (木曜定休)

☆住所 柏市大室 176-1

☆電話・ファックス 04-7110-0984

☆ホームページ

<http://jfsa.sakura.ne.jp/mysite1/newpage1.html>

☆オンラインストア

<http://kapreonline.theshop.jp/>

☆アクセス

★つくばEX線「柏たなか」駅 徒歩10分。

★柏駅西口バス乗り場 5番乗り場03系統「柏市立高校」行「大室」バス停から徒歩1分。

★駐車場もあります。お車でどうぞ



私を元気にするフリマ出店

国内事業担当事務局 入江 賢治

私はJFSAで働き始めてから10年以上フリマでの販売を担当しています。今でも今日は売れるかな・・・と心配になったり、品物が多くて大変だなあ・・・と気持ちが萎えることもありますが、当日、車で会場に向かいながら「フリマモード」に気持ちをシフトし、会場に着いたら「もうやるっきゃない！」モード全開にして臨みます。

4月初め、品川にある大井競馬場のフリーマーケットに出店しました。このフリマは規模が大きく、プロ（業としてやっている人）も出店可能なので、種々さまざまな物が売り買いされ、売る気満々の出店者や“寅さん、顔負けの口上をする名物出店者”もいます。この日はトラック満杯に品物を積み、狙いを定めた出店場所も確保できたのでやる気モードも高まりました。新品のタオルやハンカチ、下着類は探している人も多いので一番先に前に出すと、出すそばから人だかりができました。売れやすい品物があると、売る方も買う方も元気が出ます（ぜひ回収にご協力ください！）。バッグなどもどんどん出していくとお客さんもどんどん寄ってきて、場を盛り上げてくれます。この日は春先なのでスカーフをたくさん持って行きました。時には台の上に山盛りしてみると、インパクトがあって面白みもまし、目を引きまします。この日も山盛り大売出し作戦が当たり、スカーフはたくさん買ってもらえました。

大井競馬場のフリーマーケットは老若男女、外国人の方（日本に住んでいる方や旅行者、留学生）ま

でいろいろなお客さんの来る会場です。常連の方も多く、先日は久しぶりに出店をしたので、「久しぶり～、ぜんぜん来てなかったでしょ～！！」と嬉しい言葉を何度もいただきました。二言三言たまに会って言葉を交わす程度の間柄の方が多くですが、この人たちが私の気持ちを支えてくれているように思います。ご主人がトルコ人で奥さんが日本人のケバブ屋さんは子ども3人を連れて来て、会うということも元気に挨拶してくれます。自分の仕事が落ち着くと、買い物に来てくれ、トルコ料理のお弁当も差し入れてくれます。私は家族に会うのもお弁当も楽しみです。

フリマが私を元気にしてくれるのは、「今日も売るぞー！」モードになって売れたときの達成感と、フリマで再会するお客さんや出店者、フリマ主催者、アルバイト・ボランティアのみなさん、そしてアル・カイルアカデミーの子どもたちの顔が浮かんできます。そうした人との出会いなのかなと思います。体力的にはきつい仕事ですが、気持ちは元気になります。



毎月第4日曜に開催のちは銀座フリーマーケット
接客中の入江（中央）

30の春イベント

フリーマーケット&イベント会場

5月3日（水・祝）～7日（日） ノミの市（代々木公園 ケヤキ並木）

5月21日（日） アースデイちば（稲毛海岸公園）

5月27日（土） ひとものくらし あらかわ再発見2017（東日暮里公園）

♪JFSA出店♪ 都内・千葉県内のフリーマーケット会場

- 赤羽公園・池袋西口公園・新宿中央公園・大井競馬場・津田沼公園・船橋競馬場・千葉銀座通りなど
- 詳しい出店情報は、こちらからご覧いただけます。→ ホームページ <http://www.jfsa.jp/fj.html>

“和衣マルシェちば” に遊びにいらしてください

和衣マルシェとは・・・

着物や和装雑貨、リメイク品などの販売、和に関するワークショップを毎月第一土曜日に行なっています。
お客さんと出店者、みんなでワイワイと和の衣類を1日楽しむイベントです。

日時：第一土曜日（予定：5/6 6/3 7/1 8/5）10時半～14時
場所：まる空間（中央区富士見町2-12-4 JR・京成千葉駅から徒歩10分）



JFSAでのボランティアのご案内

★チャリティバザール★ 8時頃～17時頃

【ボランティアの内容】会場の準備&片付け
当日の販売補助・お餅つきの手伝いなど

- 東葛センター
日時：6月4日（日）
場所：JFSA東葛センター
（柏市大室176-1）

- 千葉センター
日時：6月11日（日）
場所：JFSA千葉センター&大田切公園
（千葉市中央区都町3-14-10）

★第57回コンテナ送り出し★

日時：6月28日（水）予定
8時半～15時頃
場所：JFSA千葉センター&大田切公園
（千葉市中央区都町3-14-10）
※お昼はみんなでパキスタンカレーです※

★ボランティアに関する問合せ先

- JFSA事務局（木曜定休 9時～19時半）
電話・FAX：043-234-1206
メール：jfsa@f3.dion.ne.jp
ホームページ：www.jfsa.jp.org
*ボランティアは無償です。
交通費や食費はご自分で負担していただいています。

★その他のボランティア

- コンテナ送り出し作業（年4回）
 - イベント・フリーマーケットなどでの協力（週末）
 - 切手やハガキの整理
 - 会報など発送作業（年3・4回）
 - 古着の選別体験（グループ対応）
 - 和服整理ボランティア
（毎月第1水曜日 10時半～）
- ボランティアご希望の方はお気軽にお問合せください

JFSAの会員・支援メンバーとして活動にご参加ください

JFSAは正会員及び賛助会員（支援メンバー）で構成されています。
（正会員：154名 賛助会員：1222名）
正会員によって活動の様々な事柄が決定され、賛助会員の協力によって活動が支えられています。
そして皆さんの参加が、パキスタンの人々との連帯事業を推し進める力になります。

会員・支援メンバーの方には、会報・回収案内（年3回）サポーターグッズなどをお送りします。

- 年会費（10月～翌年9月）
個人：会員 5,000円 / 支援メンバー 2,000円
団体：会員 50,000円 / 支援メンバー 10,000円
- 会費振込み口座（郵便振替）
番号：00160-7-444198
口座名：JFSA
*活動への寄付にも同じ口座がご利用できます。
通信欄に「寄付」とお書き添え下さい

NPO法人 日本ファイバーリサイクル連帯協議会（JFSA）（9時～19時半/木曜定休）

千葉センター 千葉市中央区都町3-14-10 東葛センター 柏市大室176-1
Tel：043-234-1206 Tel：04-7110-0984

★ 会報についての感想やご意見もお気軽にお寄せください。

電話・fax：043-234-1206 メール：jfsa@f3.dion.ne.jp ホームページ：http://www.jfsa.jp.org



JFSA のホームページ
QRコード